

Department of International Economics ▶ SEMINAR

総合的な能力を身につける。

飯沼 健子 教授 Takeko Iinuma

グローバル化時代の貧困と格差の問題を、一国内の問題としてではなく、国際的な課題としてとらえ、検証しています。貧困については主に発展途上国の歴史と実態に即して理解しようとしています。そして様々な種類の格差に目を向け、国家間・地域間の格差だけでなく、社会階層間やジェンダーおよびエスニシティ間の格差についても分析を行います。ゼミの仲間と支えあいながら多くの討論や演習を行うことで、学問的好奇心、客観的分析力、論理的に意見を組み立てる力など総合的な能力が養われます。



世界各国のゲストスピーカーも参加するゼミは国際色豊かです。

4年 坂田 悠 Yu Sakata

飯沼ゼミナールでは、ジェンダー問題や東南アジアを中心とする発展途上国問題について、輪読やグループワークを通して学びます。留学を経験する学生がほとんどであり、授業内でも世界各国からのゲストスピーカーの話聞ける機会が多く、国際色が豊かである点は飯沼ゼミの魅力の一つです。ゼミでの活動をきっかけに、留学することができ、帰国後は学内の国際交流会館の寮長として活動してきました。ゼミで培った、論理的かつ、多角的な視野から考える力は、これらの活動においてとても役立ちました。



\\ CHECK! /



春と夏はセミナーハウスでゼミ合宿。

毎年春と夏に研究発表や演習を行う合宿を様々なセミナーハウスで行います。各学年で論文を書くことも飯沼ゼミの特徴です。私はベトナムの都市部と農村部における初等教育の格差をテーマに論文を執筆しました。

TAKEKO IINUMA Seminar

飯沼 健子ゼミナール



TAKAYUKI YANO Seminar

矢野 貴之ゼミナール



数値から分かる世界経済の現状。

3年 長谷部 里奈 Rina Hasebe

株式投資と為替レート決定モデルを主なテーマとし、経済理論を用いて政策課題の実証分析をしています。米中貿易摩擦、外国人観光客の増加等、日本・世界経済の問題や成長は、株や為替を変動させる要因となっています。そのような要因に注意しながら、現状を分析し、今後の政策や動向を議論し、予想をしています。このような活動の過程で、日本・世界経済の動向を実感し、専門知識を学ぶことができました。更に、今後の就職活動に必要なビジネススキルも身に付けることができました。



\\ CHECK! /



より実践的に投資を学べるイベントも。

相場との差を最小限になるように、東京外国為替市場の円ドル相場を予想する円ドルダービーと、投資テーマを決めて企業を選定しポートフォリオを組んで投資する日経STOCKリーグという2つのイベントに参加しました。

経済問題の実証分析。

矢野 貴之 教授 Takayuki Yano

日本経済も世界経済も様々な課題を抱えています。本ゼミナールの目標は、それらの課題を数量的に把握し、解決策を提案することです。この目標を達成するには、課題を明らかにするための経済理論と数量評価するためのデータ分析が必要になります。そこで、本ゼミナールでは、まず実証経済分析の方法について学び、その手法を各自が興味をもつテーマに応用して研究を進めています。この学びの過程で学外のコンペティションに参加し、他大学の学生と切磋琢磨する機会を設けています。

